

# ◆獎励賞◆

## 原爆とぼく

港小学校六年

佐野司真

一九四五年夏まで日本は戦争をしていた。今ぼくたちは、日本の中で平和に暮らしている。八十年前に何があったのか。その前もいくつかの戦争に日本は関わっていた。そして世界を見回せば、未だにミサイル等の爆弾を落としまくって、戦争は終わっていない。人はなぜ戦うのか。平和とは何か。

八十年前に広島で何が起きて、どれほどの被害があつたのか、実際に広島に行つてこの目で確かめたい。そして、今のぼくらに何ができるのかを考えたい。

そしてぼくは広島に行つた。

爆心地近くの元安川のあたりはきれいに整備され緑いっぱいの平和記念公園になつていた。八十年前、ここで起きたことが想像できないぐらいおだやかで静かになつていた。

でも資料館は違つた。現地の資料館で生で見るたくさんの遺品にショックを受けた。焼けこげた三輪車や弁当箱、全身やけどで皮ふがたれさがつた姿、ビル入口に座つていただろう影だけが残る石段、治りようを待つ人々であふれかえる収容所の写真。

原爆資料館で広島で落とされた原子爆弾のレプリカを見た。実際の大きさは、全長三メートル、直径七十センチメートル、重さ四トン。こんなのが、たつた一発で広島の街を粉々にした。大きな火の玉みたいのが、上空六百メートルで爆発した。熱線は数千度と書いてあつた。じょうだんじやない。何にもなくなつちやうよ。見ていて腹が立つてきた。こんなに街をめちゃくちゃにして、そしてたくさんの人人が死んだんだ。

広島に行く前に、祖母に教えてもらつてぼくは初めて折りづるを折つた。佐々木禎子さんに奉納するためだ。今も平和を願つてたくさん的人が折りづるを届けている。だから広島から帰つてからもぼくはつるを折つた。広島が終わるとテレビでは長崎の原爆をやつていた。八月十五日は終戦記念日だ。でもこの日を過ぎるといつの間にか戦争の話が少なくなくなる。みんな考えなくなる。そして来年の八月まで忘れてしまう。それじゃダメなんだ。

あの日の広島のように、一瞬にしてぼくらの生活が消える日が来るかもしれない。ぼくは忘れないよ広島のこと。考え続けるよ平和のこと。